

恭賀新年

決まり文句の賀状文に飽き唐詩を借りてはや三回目。

晩唐の詩人李商隱りしやういんの「春日寄懷しゆんじつにおもいをよす」の前半。(全文は葉書の大きさでは無理)

世間榮落重逡巡せけん えいらく かねて しゆんじゆん

我獨邱園坐四春われひと きゆうえん ししゆん

縱使有花兼有月たどつ はなあ かつきあ

可堪無酒又無人たべ けけんや さけな またひとなきに

世間ではあいも変わらず栄枯盛衰の堂々巡り。だが私(李商隱)は母の喪で帰郷し早や四年。この田舎ではいま春たけなわ、野花が咲き乱れ夜の月も一際澄明で美しい。だがたとえば花あり月輝くも、共に酒を酌み交わしつつこれを愛でる親しい友がいてこそ、心もほぐれるもの。そうでなくてどうして春の風情に堪えようか。

コロナ禍で家に籠もりっぱなしの我々も妙に共感しようというもの。

あゝ、本当の春が待ちどおしい。

令和四年元旦